

内 容

* イギリスにおけるリカバリー研修ツアーの報告 (6)

○ リカバリー機構のサービスにおける利用者と介護者の役割を考える (3)

ジュリーさん

* イギリスにおけるリカバリー研修の報告 (6)

○ リカバリー機構のサービスにおける利用者と介護者の役割を考える (3)

ジュリーさん

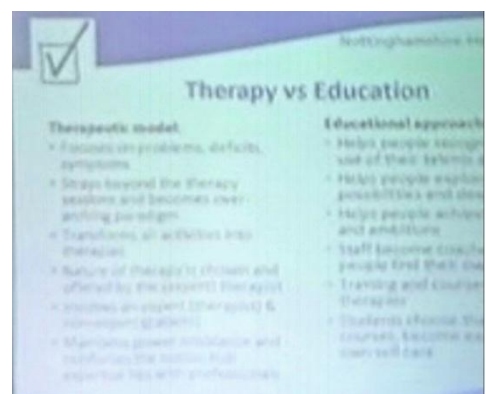
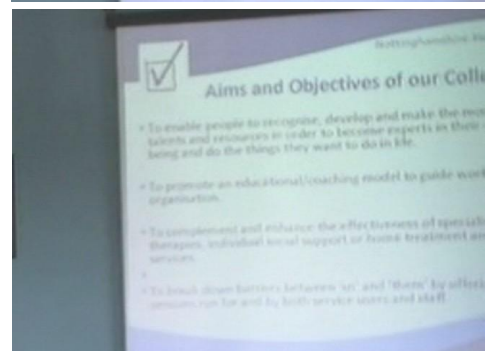
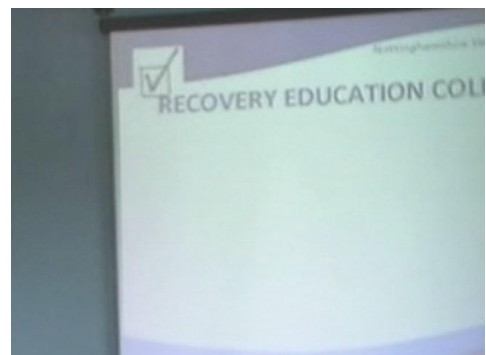
(ジュリー)リカバリー・エデュケーション・カレッジ(以降リカバリー・カレッジ)というアメリカ・アリゾナで始まったシステムを最近取り入れました。そして 3 ヶ月位経過したところで早速大きな奇跡が起こりました。それは患者さんがリカバリー・カレッジに患者さんとして入学し、卒業する時は学生という身分になって普通の学生として卒業してくるのです。これは立場が替わるということで、患者が受けとる側で専門家が与える側という様な関係性が替わるという事が大きな目的とされています。リカバリー・カレッジは患者が専門家から学ぶのではなく、患者と専門家が経験や知識を出し合い共に学ぶことで患者が専門家としての知識を得ることになります。患者さんはやりたいことを学ぶため学生として色々な事を学びます。そしてマジックと思われるくらい大きな変化が生まれてきています。リカバリー・カレッジは治療モデルから教育モデルと変わってきています。

それでは先ず治療モデルについてお話していきます。

セラピーに集中するだけではありません。例えば入浴する場合でも入浴はセラピーの一部であるという様に考えるのが治療モデルです。セラピーというのは専門職によって提供されるもので、この場合患者さんは受け身という事になります。

このような治療モデルの考え方を教育モデルと比べてみたいと思います。

私たちは大学に行って教育を受けるわけです。この時自分の希望に基づいてコースを選択していきます。自分の可能性や技能を探って選択していくわけです。この時職員は専門職では無



く、スポーツで言えばコーチのような役割で、あくまで決定するのは本人の選択です。そして自分自身を管理していくことを学んでいくわけです。

もう一つは、コミュニティにおける自分を変えていくところです。そしてコミュニティそのものが精神保健の患者に対する考えを変えていくところなのです。コミュニティにおける一般人は、精神保健の患者は専門職が対応していくものだと思っている訳です。リカバリー・カレッジは精神保健の患者だけではなく地域に開かれたカレッジで、コミュニティである地域の人誰でもこのカレッジで学ぶ事が出来ます。職員や家族、誰でもここに来て学んで良いわけです。

現在は郊外にある一軒の家がリカバリー・カレッジの場所になります。ここには研修室や図書室、キッチンやインターネットカフェもあります。通常はこの研修室で研修を行います、他のコミュニティホールや活動チーム仲間の場所で行うこともあります。

色々なコースが有り、2 時間の精神保健導入コースから 3 週間くらい続く精神保健コースなどが有ります。そして 3 週間の精神保健コースでは 3 週間のコースが終わった後 9 週間は一般の精神教育に繋がるコースもあります。

またこのリカバリー・カレッジは患者さんと家族とのパートナーシップで成り立っています。そして 50%のスタッフと 50%の患者さんが物事を決める会議に参加しています。この会議において共同でコースは開発されました。

(参加者)リカバリー・カレッジの運営経費はどの様になっているのですか？

(ジュリー)メインの研修室となる建物は我々の組織ノッティンガムのトラストが所有しています。そして職員はトラストの職員が兼務しておりますので、追加の経費は発生しておりません。

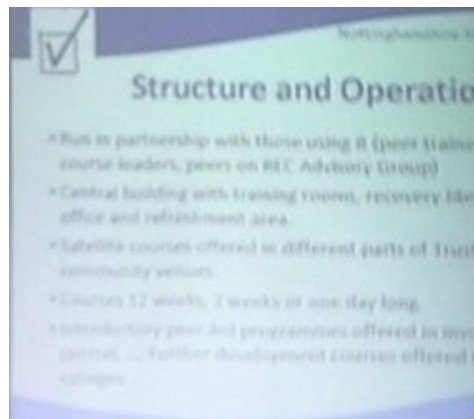
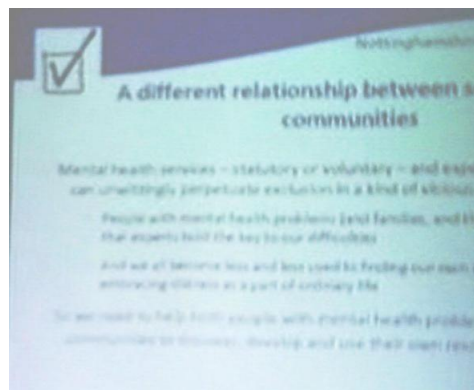
(仁木)カレッジに関して日本とは大きくシステムが違うと思いますので、その部分を質問させてください。カレッジは日本ではユニバーシティと同じように大学と訳されており学校法人が運営しておりますが、こちらのカレッジの定義を教えてください。

(ジュリー)ユニバーシティは公立の大規模大学でカレッジは小規模の私立大学と考えて良いと思います。そしてイギリスには公的機関でカレッジのコースを認定する組織が有ります。その組織によってノッティンガムのトラストが作成したコースはカレッジのコースとして認定されます。そしてコース終了者はカレッジの 1 単位を取得したことになります。

(ジュリー)どのようなコースが有るかについてお話ししたいと思います。5 つの項目が有ります。

先ずトラストでパートナーシップとして働いていく上で助かるような内容です。患者さんが自分で参加していくようなとき、自分の経験を話していく、自分の物語を話していく、という事が大事な事になりますので、それについて学びます。またピアサポートワーカーになるためには、リサーチすることや色々な委員会に出席していくための勉強もします。

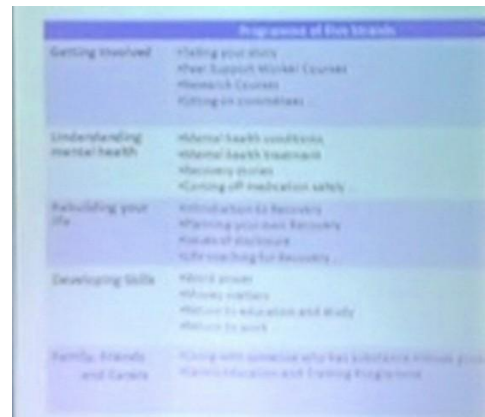
次は精神保健について学ぶという事で、色々現れてくる症状を管理していくという事について学ぶという内容です。躁うつ病や精神病とどの様に共存して生きていくかという事です。どの様にして医療を安全に



止めていくことが出来るのかを学びます。これは自分の生活をどの様にして再構築していくかという事で、リカバリーという事です。

そして生活という事は資金についても管理していくということで、更に他者とどの様に繋がっていか、仕事を見つけることも重要です。家族の方とも一緒に進めていきます。薬物中毒の方とも一緒に進めていきます。

コースは全部で 30 コース程あり、2 時間から 12 時間くらいになります。コースのレベルは様々で大学のレベル 4 クラスのものもあります。そして履歴書に経歴として書けるようなレベルのコースも沢山あります。これらのコースのいくつかは精神科医や看護師、ソーシャルワーカーなど資格を持った職員と共に運営しております。

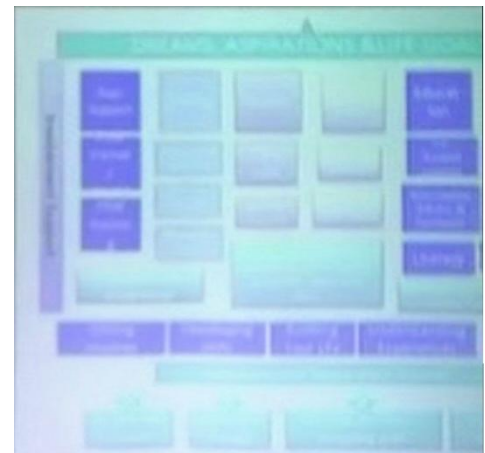


ここからは今までの話のまとめのような部分で、リカバリー・エデュケーション・カレッジはどの様に構築されていくかを示すようなものです。

リカバリー・カレッジにはどの様な形で参加するのか？というと、インボルブメントセンターから紹介されてくる方、家族の方や当事者が学びたいと言って来られる方、トラストの職員の方や一般市民の方で学びたいと言って来られる方などです。

そしてコースで学ばれ地域のアドバイスなどの業務にあたっていくわけです。

ここはリカバリー・カレッジですから、教育を通してどの様にして彼らのゴールを達成していくのか、という事を考えて進めていきます。彼らがどの様なゴールを目指しているのかですが、何れの場合でも話し方という基本が有ります。ゴールの 1 つにピアサポートワーカーになるという事もありますし、研修のトレーナーになる事やサーチに参加するという事もあります。また評議委員会の委員になるという事もありますし、アダルト精神保健局に進むという事もあります。この様に彼ら自身が仕事に就くという事が目標になります。



彼ら自身がゴールを達成するために、彼らは色々なコースを選ぶ事が出来ます。そして最初に考えられるのは彼ら自身が経験してきたことを学ぶことですが、コースを選ぶにあたりインボルブセンターのサポートを受ける事が出来ます。

またコースはどれを選ぶことも可能ですが、例えばピアサポートワーカーを目指す場合は、この様な順番で受講すると良いですよというアドバイスをすることが出来ます。

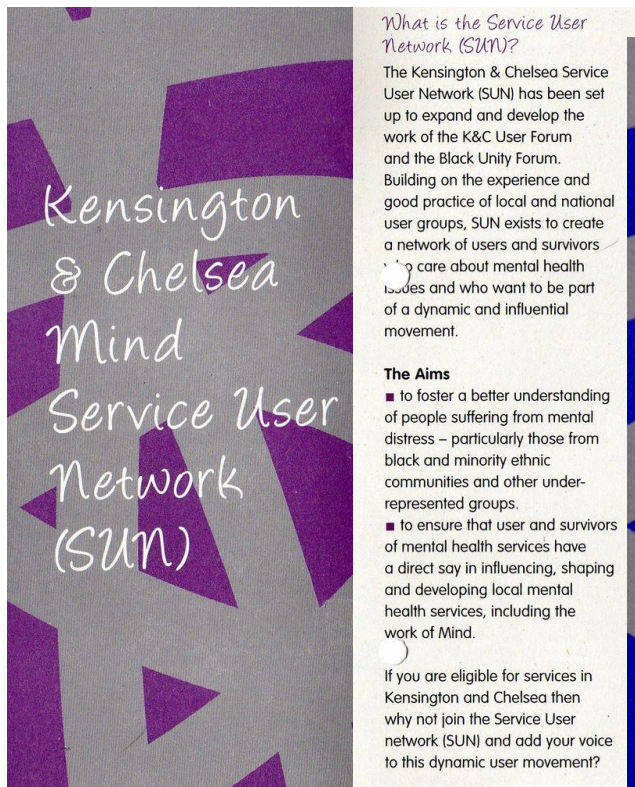
(シェパード)リカバリー・カレッジには、この様にリカバリーして欲しいという思いが多分に含まれています。リカバリーモデルで行うという事で大事な事は、ラーニング・カルチャーの方向に持って行くことです。教える側、講師としては自分より良い状態にすること、これが最も重要な講師としての姿勢です。そして講師は生徒と対等の立場で一緒に学ぶというラーニング・カルチャーがとても重要です。

リカバリー・カレッジは専門家とピアサポートワーカーが、一緒に学び教える場を作っています。一般的な精神保健サービスと全く違ったアプローチをしています。そしてリカバリー・カレッジの教育システム・思想というのは、すっかりした形で見えていくものだと考えています。

イギリスには 50 程のトラストが有りますが、その内の 30 程がリカバリーに向けて活動をしています。

ジュリーさんからのお話は、ここ迄となります。

有り難うございました。



Kensington & Chelsea Mind Service User Network (SUN)

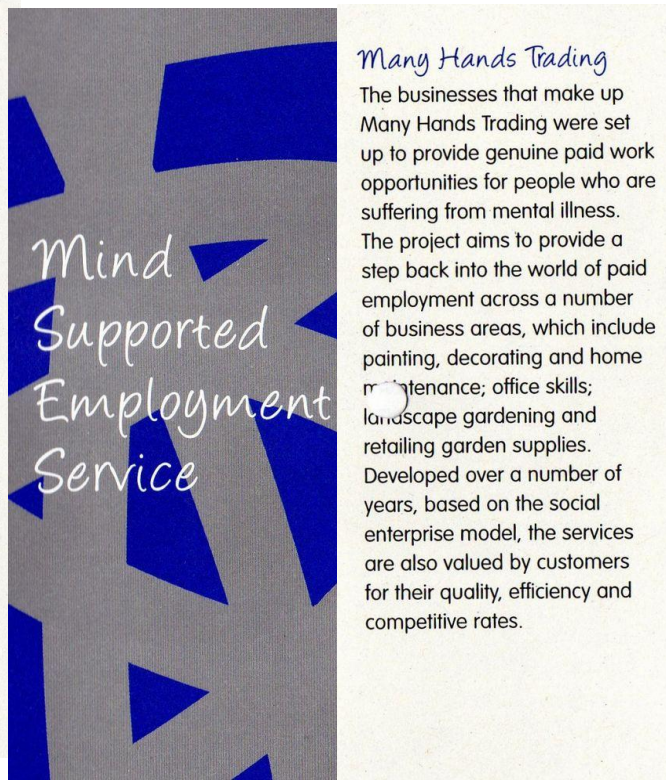
What is the Service User Network (SUN)?

The Kensington & Chelsea Service User Network (SUN) has been set up to expand and develop the work of the K&C User Forum and the Black Unity Forum. Building on the experience and good practice of local and national user groups, SUN exists to create a network of users and survivors who care about mental health issues and who want to be part of a dynamic and influential movement.

The Aims

- to foster a better understanding of people suffering from mental distress – particularly those from black and minority ethnic communities and other under-represented groups.
- to ensure that user and survivors of mental health services have a direct say in influencing, shaping and developing local mental health services, including the work of Mind.

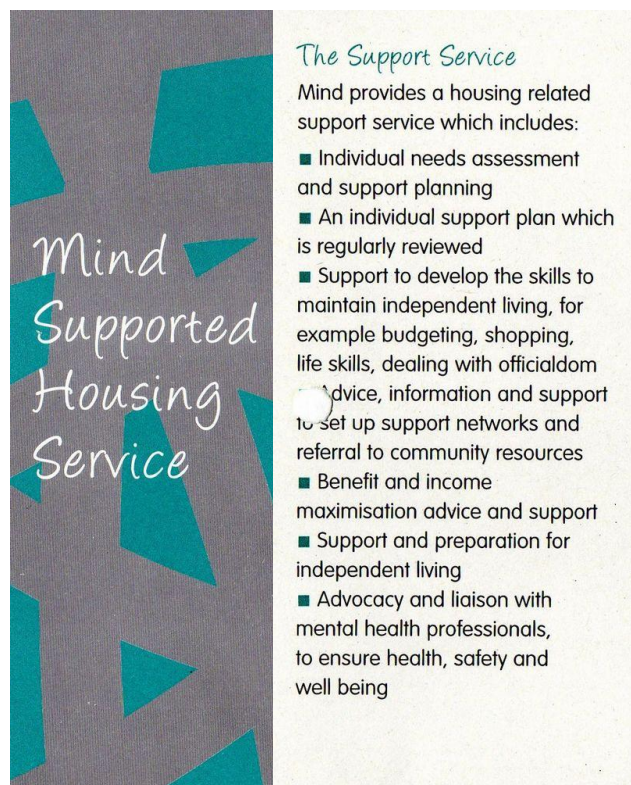
If you are eligible for services in Kensington and Chelsea then why not join the Service User network (SUN) and add your voice to this dynamic user movement?



Mind Supported Employment Service

Many Hands Trading

The businesses that make up Many Hands Trading were set up to provide genuine paid work opportunities for people who are suffering from mental illness. The project aims to provide a step back into the world of paid employment across a number of business areas, which include painting, decorating and home maintenance; office skills; landscape gardening and retailing garden supplies. Developed over a number of years, based on the social enterprise model, the services are also valued by customers for their quality, efficiency and competitive rates.

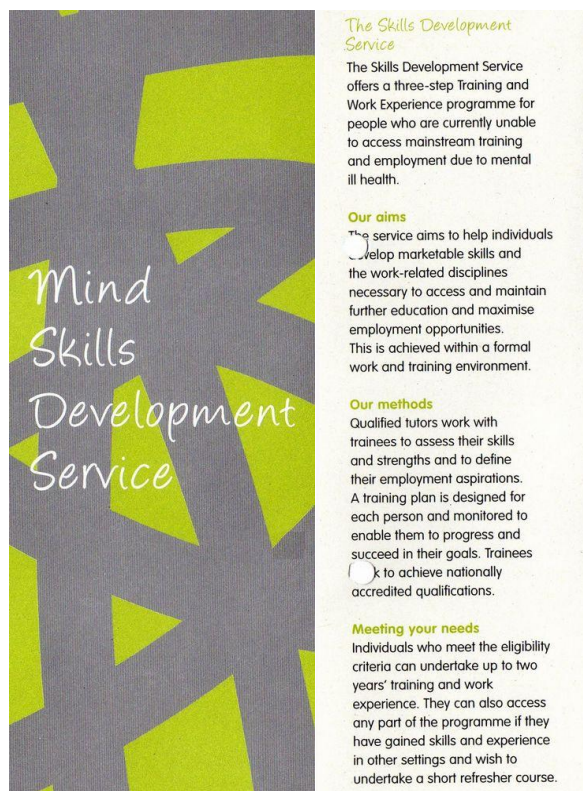


Mind Supported Housing Service

The Support Service

Mind provides a housing related support service which includes:

- Individual needs assessment and support planning
- An individual support plan which is regularly reviewed
- Support to develop the skills to maintain independent living, for example budgeting, shopping, life skills, dealing with officialdom
- Advice, information and support to set up support networks and referral to community resources
- Benefit and income maximisation advice and support
- Support and preparation for independent living
- Advocacy and liaison with mental health professionals, to ensure health, safety and well being



Mind Skills Development Service

The Skills Development Service

The Skills Development Service offers a three-step Training and Work Experience programme for people who are currently unable to access mainstream training and employment due to mental ill health.

Our aims

The service aims to help individuals develop marketable skills and the work-related disciplines necessary to access and maintain further education and maximise employment opportunities. This is achieved within a formal work and training environment.

Our methods

Qualified tutors work with trainees to assess their skills and strengths and to define their employment aspirations. A training plan is designed for each person and monitored to enable them to progress and succeed in their goals. Trainees work to achieve nationally accredited qualifications.

Meeting your needs

Individuals who meet the eligibility criteria can undertake up to two years' training and work experience. They can also access any part of the programme if they have gained skills and experience in other settings and wish to undertake a short refresher course.